

てっつうおしょう だ び ⑦ 徹通和尚茶毘の墓

太平寺二丁目 市指定有形文化財 歴史資料

大乘寺を開山した^{てっつうぎかい}徹通^{だ び}義介の茶毘墓で、高さ約70cmの自然石に「大乘寺開山和尚茶毘墳」と刻まれています。



徹通義介は、正応四年（1291）に^{とがしいえひさ}富樫家尚

が押野荘の一角に密教寺院として創建した大乘寺に招かれ、ここを禅寺として^{えいにん}永仁元年（1293）に開山となりました。義介は大乘寺住持を6年間勤め、^{えんきょう}延慶二年（1309）に91歳で亡くなり、太平寺地内で茶毘にふされました。

茶毘墓の石碑は明治時代の耕地整理以降、所在が分からなくなりましたが、郷土史家の^{たちさんおう}館残翁（八平）と地元の有志が探し出し、太平寺に安置しました。

いけがみはくさん ⑧ 池上白山神社

位川

境内には、水が枯れている^{おちょうず}御手水池跡がみられます。大乘寺の主僧^{めいほうそてつ}明峰素哲（富樫氏の出身※1）の葬儀を行ったときに、^{ごんげん}白山権現の^{ようごう}影向（※2）があつて水が湧き出たと伝えられています。白山権現がお参りに来て手を清められた池として、今でも大切に守られています。

※1 大乘寺を開いた徹通義介の誤りとされる。

※2 神仏が仮の姿をとってこの世に現れること。

